

令和2年3月30日

報道機関 各位

大阪体育大学入試・広報部

東京オリンピック・パラリンピック延期

「前向きにスポーツ振興策を考える1年に」富山教授が語る

東京オリンピック・パラリンピックの延期について、地域密着型のスポーツマネジメントなどを研究する富山浩三・体育学部教授は延期を前向きにとらえています。「それで終わりの打ち上げ花火のようなイベントになりがちだったものが、一年延びたことで事前合宿などの招致を契機にどのようにスポーツ振興につなげられるか考える猶予が与えられたと思えば、一過性のイベントに終わらせない事前の活動に十分時間を使えるはず」などと語ります。

<以下、寄稿文です>

東京オリンピックの一年程度延期が決まりました。大変残念ですが、世界のこの状況の中でやむを得ない決定ともいえます。そのことで大きな課題に直面している方々にエールを送りたいと思います。

選手選考だとか、チケットの払い戻しだとかが話題になっていますが、ここでは国民生活についても考えてみたいと思います。オリ・パラの開催にあたっては、レガシープランを策定して大会後に何を残すのか考えてきました。オリンピックレガシーは、三つの基準で考えることができます。それは「目に見えるかどうか」「計画的なものか」「そしてポジティブなものかどうか」です。目に見えて計画的でポジティブなレガシーとしての、競技場の建設や道路などの整備が注目されがちですが、目に見えない・非計画的なものもあります。例えば、スポーツ庁ではオリ・パラを、国を挙げてのスポーツ振興に役立てようとしています。東京以外のまちでは、事前合宿などを誘致して海外選手と市民との交流を企画してきました。今回延期になったことで、交流の企画などもすべて延期や中止になっています。子どもたちが、海外のオリンピックとふれあうことによって受けるインパクトは計り知れないものがあっただけに、とても残念です。しかしながら、オリ・パラは中止ではなく延期です。大会が開催される時にはまた機会が巡ってくるものと考えたいと思います。だとしたら、延期になった一年間の間にどのようなことができるかを考えることが大切です。ともすればオリンピックが終われば、それで終わりの打ち上げ花火のようなイベントになりがちだったものが、一年延びたことで事前合宿などの招致を契機にどのようにスポーツ振興につなげられるか考える猶予が与えられたと思えば、一過性のイベントに終わらせない事前の活動に十分時間を使えるはずで

す。聖火リレーは日本中を駆け——（以下、略）

<続きは本学ホームページのNEWS「お知らせ」をご参照ください>



富山 浩三（とみやま・こうぞう） 体育学部 健康・スポーツマネジメント学科 スポーツマネジメントコース。スポーツマネジメント専攻。本学社会貢献センター長。日本スポーツマネジメント学会理事。

※この件の詳細や取材の希望は下記までご連絡ください。コメントをご使用の際は大学、氏名を明記してください。写真データをご希望の方も下記にご連絡ください。

【大阪体育大学入試・広報部】

大阪府泉南郡熊取町朝代台1-1 TEL 072-453-7070 FAX 072-453-8970

担当・大坪 koho.users@ouhs.ac.jp

※4月1日から広報室（TEL 072-453-7021、FAX 072-453-8818）に変わります